

1 目指す学校像	○生徒に「考える力」をつけて卒業させる学校 ○「モノづくり」と「コトづくり」、そして「人づくり」 ○都内唯一の「総合情報科」の工業高校として情報活用能力を育て実践的な職業教育を推進		
2 中期的目標と方策	(1) 学校経営 高いコンプライアンスを有する教職員集団を育成し、生徒・保護者の信頼を高める。学校経営上の課題について横断的に検討して、教育活動の改善や新規事業の提案などを推進する。ICT 機器等を活用した各分掌の議事録の共有、企画調整会議資料の回覧により情報を迅速・確実に共有し、各会を活性化させる。	(2) 学習指導 充実したわかる授業を展開し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。教科マネジメントを確立し、組織的に生徒の学力向上を図る。様々な施策により、全体的に学力の向上シフトを達成する。スタディサプリ等を活用した、基礎学力の向上を図る。	(3) 進路指導 最後まであきらめさせない進路指導を貫く。キャリア教育を充実させ、生涯にわたる在り方・生き方について考えさせ、具体的なイメージを描かせる。資格取得や検定受験を意図的・計画的に進め、技能スタンダードの目標達成と生徒の自己肯定感を高める。
3 今年度の取組目標と方策	(1) 教育目標と方策 各種会議を充実して情報共有を進め、有効な改善策立案と実施を行う。 ①常に企画調整会議での学校経営計画の理解浸透を図りながら各分掌・学年の意見聴取の双方向性を高め、学校運営の進捗を適正に管理し、適宜必要な方策を検討し実施する。 ②主幹会議を機能させ、教育課題に迅速に対応する。 ③「TOKYO P-TECH」によるIT人材育成のためのプログラムの具体的なプランの作成を行うため、プロジェクトチームを編成し、計画的・継続的な検討を進める。 ④経営企画室は、経営的視点に立った経営計画を策定し執行する。 ⑤働き方改革プランに基づき、ライフ・ワーク・バランスの改善に取り組む。		
重点目標と方策	(2) 重点目標と方策 ①本校を理解した生徒の獲得 総合情報科の特色を生かした4系列のものづくり教室や1日体験入学を充実させるとともに、広報を徹底して多くの中学生に参加してもらい、工業・情報教育に関心のある応募者を増やす。 【数値目標】入学者選抜応募倍率を、推薦に基づく選抜2.0倍、学力検査に基づく選抜1.2倍の達成 ②PDCA マネジメントサイクルの実動化とライフ・ワーク・バランスの改善 教育系職員と行政系職員の関係を強化し、効率的で有効な学校運営を推進する。学習指導・部活動指導等の質の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進め、ライフ・ワーク・バランスを改善する。 【数値目標】教育系・行政系合わせて、電子決定方式の80%以上達成 全員による夏休の100%取得及び5日間の閉庁日の完全実施 ③「いつでも、どこでも、誰でも」指導ができる体制とぶれない指導 「始業チャイムとともに授業開始」、「身に付けさせる規律・規範」等、教職員の一致した厳しくも温かい指導を実践する。 【数値目標】対在籍者比で退学者2%以下、転学者と退学者の合計で4%以下		

○充実したわかる授業 ○自律的生活態度の育成 ○希望進路の実現		
(4) 学校生活と健康づくり 生徒の健康づくり、安全管理、環境美化を徹底し、体力向上を図る。積極的に社会に参画する人材の育成を図るため、教科と関係機関が連携した体験活動により、消費者教育・主権者教育を適切に実施する。	(5) 特別活動 部活動の一層の活性化を図る。体育祭や文化祭などの学校行事において、生徒の主体性を引き出しながら一層の充実を図る。生徒会活動・委員会活動の活性化を図り、生徒が地域社会等で主体的に活躍する場を拡大する。東京都子供読書活動推進計画を踏まえて本校の読書活動を推進する。オリンピック・パラリンピック教育を、あらゆる場面・機会積極的に実施・展開する。	(6) 広報活動と地域連携 本校を志す生徒を増やすため、SNS等を積極的に活用し、本校の魅力を発信する。募集・広報活動の工夫・改善による「推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜」の応募倍率の向上を図る。教職員による中学校訪問、管理職による学習塾等への訪問による募集対策を実行する。地域連携を充実・開拓し、本校の魅力を伝える。
すべての教育活動で生活指導の有効性を共有し、生徒に「身に付けさせる規律・規範」を明示して、「いつでも」「どこでも」「誰でも」の指導を徹底する。 ①身だしなみや言葉遣いに関する指導や挨拶ができる指導を継続して実施する。 ②すべての学校生活の場面で、学校として一致した「ぶれない生活指導」を行う。 ③特別支援教育の視点をふまえて、個々の生徒に有効な指導方法で対応する。 ④全教職員が一致していじめを許さない姿勢を見せ、いじめ撲滅を果たす。 ⑤宿泊防災体験活動等の防災教育を充実させて、自助・共助の意識を育てる。 ⑥市選挙管理委員会等と連携した体験活動により主権者教育を計画的に進める。 ⑦生徒指導部・学校いじめ対策委員会・特別支援教育委員会を中心として、全教職員と保護者が連携し、生徒個々のわずかな変化にも早期に対応し、生徒に自らの人生を充実させる指導を推進する。		
④充実したわかる授業づくり 学力スタンダード、技能スタンダード等、各科・系列の学習到達目標達成のため、教科会・系列会議・総合情報科会を計画的に実施して教科マネジメントを機能させる。 【数値目標】授業に関する科・系列研修会を年2回以上実施 ⑤生徒の希望進路の実現 最後まであきらめさせない励ましの指導を全校的に継続し、教員による企業訪問やインターンシップの充実を図る。 【数値目標】学校斡旋による進路決定率100%		